

博物館と共に歩む

これまで博物館とは縁の薄かった私だったが、目指す思いと考え方が共通点となって、今では両者ががっちりとスクラムを組んで一つの活動を継続している。

私は今、市内音別町の尺別という片田舎で林業関連の仕事に従事している。博物館が「林業」に注目し、「林業の現状認識や体験を実際の山の中の現場で学びたい」との企画が石川孝織学芸員から示され、大変嬉しく、私はすぐに共鳴した。このような企画により、一般市民へ少しでも「林業」の普及啓発ができれば良いと以前から思っていたからである。

そして平成20年8月28日、「林業基礎講座」と称した講座が当社の管理山林で開かれ、今年で7回目を数えることとなった。30人程度を定員とし、中には毎年参加の人もいて、顔なじみがだんだん増えて嬉しく思う。

最初は、健全な森林（人工林）づくりを進めていくにはどんな管理作業が必要であるのかとか、森林の有する多面的機能（役割）とはどんな事なのかなど、基礎をしっかり勉強してもらった。参加者はどんどん知識を吸収していった。

しかし、何事も体験しなければ知識というものは身に付かない。そして実際にカラマツの植林を、また11年生になったばかりの木の枝打ちを行い、仕事の大切さとその苦労を、身をもって味わってもらった。

昼食後は森林浴と称してカラマツ・トドマツ林、

そして続く広葉樹林の中を、みんなでワイワイガヤガヤと散策し、美味しい空気を胸いっぱい吸い込む。森の中に漂うほのかな匂いを感じ、参加者は人それぞれに英気を養ったようである。いわゆるフィトンチッド効果だろう。

講座の終わりには、参加者とのこの講座に協力する林業仲間が10人単位で輪になっての「車座座談会」。課題を決めずにこの日の反省や仕事の苦労話、そして世間話に花が咲く。みんなの気持ちが打ち解けて、大きな笑い声があちらこちらから聞こえてきた。和やかな雰囲気になって本当に嬉しい感じがする。

講座終了後の参加者の感想では、多くの皆さんは満足しているとのことであり、「来年もまた参加したい」との声に私たちはいつも励まされている。これは博物館のみなさんの綿密な企画によるもので、協力している私たちにとってもこの上ない喜びである。

そして一般市民の皆さんの森林・林業に寄せる期待は、今ではとても大きなものになってきている事は間違いないと感じている。

これからも博物館がいろいろな分野で調査研究や普及活動を活発に展開されていく上で、私たち林業関係者も一緒になって、いささかなりともお力になりたいと思っている。

かたばみ興業(株)尺別営業所

所長 杉山 範雄

9月号目次

博物館と共に歩む.....	杉山 範雄	2
新得町上佐幌出土の土器について.....	澤田 恭平	3
野草園及びロックガーデンで2014年に確認された帰化植物.....	加藤ゆき恵	7
タンチョウに襲いかかるヒグマの初記録.....	深津 恵太	9
チャランケチャシ.....	山代 淳一・福岡 明子	11
博物館ニュース.....		12



私の博物館フロアトーク(8月23日)

〈表紙写真〉阿寒国立公園が誕生して80年。特別展・私の博物館「あの日の釧路・阿寒」(7/26-10/5)では、阿寒の観光案内図やホテルのパンフレットなども紹介しました。表紙はそのなかの一点、国立公園指定の翌年1935年に発行されたもので、摩周・屈斜路・阿寒の三湖を北東側から見下ろす構図で描いています。この案内図を手にして多くの方々が公園内を訪れたにちがいありません。(戸田 恭司)

釧路市立博物館館報 No.414 2014年9月号 2014年9月30日発行(年2回発行)

発行 釧路市立博物館 〒085-0822 釧路市春湖台1-7 ISSN 2187-9591
☎ 0154-41-5809(博物館)・43-0739(埋蔵文化財調査センター)/ FAX 0154-42-6000
釧路市立博物館Web <http://www.city.kushiro.lg.jp/museum/>
museum@city.kushiro.lg.jp(博物館) maibun@city.kushiro.lg.jp(埋蔵文化財調査センター)
発行責任者 木村 俊宏 編集 石川 孝織・土屋 慶丞・貞國 利夫 印刷 (株)藤プリント